

**令和7年度第2回宮崎県地方独立行政法人評価委員会
議事要旨**

- 1 開催日時 令和7年8月4日（月） 13：30～15：00
- 2 場 所 宮崎県立看護大学附属図書館2階 多目的ホール
- 3 出席委員 神奈川県立保健福祉大学教授 石原 美和（リモート参加）
※五十音順 宮崎県看護協会会長 久保 敦子
公認会計士 高妻 和寛
宮崎県医師会副会長 小牧 斎
宮崎大学理事補佐 伊達 紫

4 審議概要

議事（1）公立大学法人宮崎県立看護大学の令和6年度業務実績評価書案について
（項目別評価の大項目第1まで）
事務局から資料の説明を行い、委員質疑を行った。主な質疑は以下のとおり。

- | | |
|----------------|--|
| 【石原委員】 | 大項目第1には非常に多くの内容が網羅されている。
その中で、大学における研究については、教員が研究にもしっかり取り組み、活気ある大学らしい教育環境を作るところが重要。専門学校とは違う点を強調された方がいいのではないかと思います。
次に、大学院における保健師養成課程について、今後の見通しや課題のようなものはあるのか。大学院での教育となると人数を絞ることになるが、市町村での保健師確保が厳しいということも伺っている。
3点目は、県内就職率の課題だが、大学の卒業生にふさわしい、受け皿となりうる病院側の体制についても並行して考える必要があると考える。 |
| 【伊達委員長】 | 教員や学生の研究に対するモチベーションというのは重要なポイントだと思う。 |
| 【看護大学】 | 研究成果を授業の中に盛り込んでいくということが大事だと思う。本学では、自身の研究成果をどう授業に盛り込んだか、教員の講義の評価項目に設定して毎年チェックしている。
また、研究時間や環境の確保も重要であり、研究時間確保のための工夫等を教員間で共有し、次年度の取組に活かす試みも行っている。 |
| 【小牧委員】 | 研究費用は十分に確保できているのか。 |
| 【看護大学】 | 県の御理解もいただき確保いただいている。また、個人の研究でも地域貢献に資する研究は認められたりしている。 |

- 【看護大学】 保健師について。県内出身かどうかはその後の就職先選択にも影響ある。宮崎県出身者は県内に就職いただくよう、特別推薦の枠があり、それをもって数値目標の保健師県内就職率50%の確保を見込んでいる。
- 【久保委員】 看護協会でも先日、保健師の魅力発信に関するイベントを実施した。保健師がどんな仕事なのかを紹介するためのものだったが、中学生、高校生、看護学生やその保護者など様々な方が来られ、大変意義あるものだったと思う。今後も学校や医療機関、県と協力してやっていければ。
- 【石原委員】 市町村の保健師不足等の状況はどうなっているか。
- 【医療政策課】 現場の保健師確保という点では中々厳しい状況であると伺っている。採用が必要な時期も自治体によって波があるので、現在当課に具体的にどのくらい足りないという声が届いている状況ではないものの、県も含めて今後厳しくなっていくそうだと感じている。
- 【伊達委員長】 3点目の県内就職率について、学生の受け皿という部分については県病院等はどうか。
- 【医療政策課】 受け皿についても非常に重要。大学設立当時も、県内の看護職の地位向上のため、看護大学卒業生が県内に就職して活躍したり、あるいは県立看護大学が地域と一緒に県内の看護界を引っ張ったりしていくことが期待されていたと聞いている。
県立病院等もこれまで受け皿としてかなりの人数を迎えていると聞いているが、これからも県立看護大学の卒業生が求められるという状況を作っていかなければならないと考えている。卒業生のうち今各病院でかなりの役職に就かれている方もいらっしゃると思うので、そういった方々と共に県内の看護職者の待遇改善や向上を進めていくことが大事だと思うし、県も一緒になって取り組んでいければと考えている。
- 【伊達委員長】 受入れ側の受入れ目標などもあるのか。
- 【医療政策課】 県内の枠という形を採用されている医療機関もあるとは思いますが、目標として看護大生を何人就職させる、という形はとっていないと考える。
看護大は教育に非常に力を入れており、看護の心を持った優秀な学生を育てているので、そういった学生であれば県内の医療機関にも採用されていくものと考えている。
- 【久保委員】 県内医療機関の看護師数は充足率 75%程度。看護大の卒業生がくればそれは嬉しいと思う。ただ、選択の権利は学生にあり、外に出ていく人が多いというのは、給与面も含めて県内医療機関のさらなる努力が必要なのだろうと思う。

- | | |
|---------|---|
| 【小牧委員】 | 就職後、臨床技術だけでなく、臨床経験を踏まえての学会発表などを積極的にやれるような雰囲気があるかも重要。そこを理解していくのが医療機関側の役割だと思う。そういったモチベーションを高めるという面の改善もできればよい。 |
| 【高妻委員】 | 私も受け皿の問題は非常に大きいと思う。県内の就職先の魅力が高まればそちらに就職するのはあり得る話なので、待遇改善が進めば、県内就職率の向上にもつながるのではと思う。 |
| 【伊達委員長】 | 就職後の国内留学など、社会に出た学生のニーズや意欲につながるようなものがあれば良いと思う。 |
| 【石原委員】 | 都会の病院との引き合いも強まる中、地元就職させるというのも並々ならぬこと。魅力的なモデル病院を作るなど、卒業生が安心して積極的に就職したいと思えるところがあれば、就職率も上がっていくのではと考える。 |

議事（１）公立大学法人宮崎県立看護大学の令和６年度業務実績評価書案について

（項目別評価の大項目第２から第５、全体評価について）

事務局から資料の説明を行い、委員質疑を行った。主な質疑は以下のとおり。

- | | |
|--------|--|
| 【小牧委員】 | 大項目第５の情報セキュリティ対策について、学内の状況を詳しく知りたい。 |
| 【看護大学】 | 2021年に新たな情報セキュリティ基本方針を定めた。本学の情報の保護と活用及び適切な情報セキュリティ対策を図ることを目的に、具体的な対策基準等を定めたところである。情報資産の重要性ごとに対策を強化しているほか、アクセス者の限定など様々対策を講じている。 |
| 【石原委員】 | 学内の教職員向けのヘルプデスクのようなものは設置されているか。 |
| 【看護大学】 | 委託業者に大学に常駐してもらい、セキュリティ上の問題が生じた場合にはすぐに対処できるようにしている。 |
| 【石原委員】 | 勤怠管理システムについては、職員の業務改善につながったとの認識でよいのか。 |
| 【看護大学】 | そのとおり。削減できた時間を他の業務に回すことができたりなどした。 |

【高妻委員】	評価の方は異論ないが、数値目標について大項目第1以外はほとんど設定がない状態であるため、財務内容の改善など、各大項目でも目標設定していた方が評価しやすいと思う。 また、情報セキュリティについて、標的型攻撃メール訓練等の学内での浸透状況を伺いたい。
【看護大学】	財務内容については、指標としての設定はないところであるが、損益計算書の概要や貸借対照表の分析、流動比率の状況をとおして、良好な運営かどうか確認いただいているところである。 次の目標に向け、どんな指標が必要なのか、県と共に検討していきたいと思う。
【看護大学】	標的型メール訓練は学生・教職員に対して毎年行っており、開封した場合、今後そのようなことがないよう研修もおこなっている。学外・学内のメールを識別できるような工夫も今後行いたいと考えている。
【伊達委員長】	本日は様々な御意見いただき感謝する。就職率については、医療だけではなく様々な現場で共通の課題だと考えているので、横断的な協議の場というののも必要だと思う。

審議の結果、評価書案について修正なしである旨を委員長より各委員に確認し、了承。